

読売新聞

【2014年7月4日付】

THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

学校や地域で、子供たちに工夫を凝らした指導を行う人たちをたたえる「第63回読売教育賞」の受賞者が決まり、県内からは「学校づくり部門」の最優秀賞に一人、「理科教育部門」の優秀賞に一団体が輝いた。

子供たちが井上さんと制作したオアシエを紹介する藤川さん（横浜市立白幡小学校で）

◇学校づくり部門最優秀賞
前横浜市立白幡小学校PTA会長
藤川優さん 50



第一線で働く人招き授業

資生堂で勤務する傍ら、2011年度にPTA会長に就任した。「子供は地域ぐるみで育てるもの」。持論に基づき、学校に「社会の風」を取り入れる手伝いをしたいと思った。永池啓

子校長の協力を得て、第一線で活躍する人を学校に招く取り組みを始めた。初年度は、子供の視野を広げ、感性を培う事業を企画。歌舞伎役者・中村吉右衛門さんの出張公演に応募

し、学校で鑑賞会を開いた。ほかのPTAにも協力を呼び掛け、人脈をたどってもらった。ある保護者の親類のデザイナーらを招いて、白幡小創立75周年の記念ポスターを作製するなど、子供たちが各分野のプロと触れ合う場を提供した。

海洋保護活動を展開する米NPOの日本支局役員で画家の井上文太さんを招いた出前授業では、美術だけでなく、環境問題を考えた。今年4月には、横浜市の姉妹都市・米サンディエゴ市の小学生とのテレビ会議も実現。子供たちは、土曜日に地元の大学生や元教師らに教えてもらった英語を使って、お互いの暮らしぶりや海洋汚染について話し合った。

この春、3年間務めたPTA会長を退いたが、情熱は衰えない。「今回の受賞賞金で、子供たちをサンディエゴに行かせてあげたい」。小学生のうちからグローバルな視点も育むことができればと願っている。

前 PTA 会長 藤川 優 様の白幡小
学校での取組が第 63 回 読売教育賞
「学校づくり部門」最優秀賞
に選ばれました。